大阪府立農芸高等学校　平成30年度　第2回　学校協議会　記録

平成30年11月28日(水)

　場所　農芸高等学校　校長室

参加者：藤岡、大堀、澤田、泉谷、新井（同窓会：角野　欠席）

参加者：寺岡　浦、髙木、喜多村、烏谷、吾妻、樹、葉山、上武、土肥、林田・・・記録:烏谷

開始15:30～終了17:20

１．学校長挨拶

　ＳＰＨ事業についての学校教育への取組（意識の統一）

　文科省の視察、12月6日運営指導委員会についての連絡・報告

　生徒たちの変化について

　体育祭の飲料水の配布、農芸祭2000人の列、様子、

２．教頭より

　司会、角野委員長の欠席のため、司会は教頭　浦が行う。

　本日の流れ、次第の確認

３．協議

①第1回授業アンケート結果について（大阪府教育庁からの指示）

　・質問１～９の説明と結果報告

　・授業における教材の活用（例えばプロジェクターや動画を活用している）

　・生徒の授業への取り組み姿勢・学年・各授業における経年変化について

　・地歴が高い理由の一つに、ＰＰＴ教材の活用など授業への工夫が考えられる

　・数学が下がっている理由の一つに、授業内容の難易度が高くなっていることが考えられる。

　・ＳＰＨ事業の取組として魅力がる授業として、普通科では国語・社会・理科が専攻して取り組んでいることから、例年よりも平均値が高くなったことが考えられる。そのため、数学が低いように見える。

学校協議会

　委員　農業では農業実習もあるため、予習・復習は難しいところがある

　　　　農業科目に関するアンケートの取り方に関しては、一定基準の柔軟さが必要である。

　委員　アンケート結果には各教科の特性が見られた

　　　　生徒の発達状況に応じた対応が必要である

　委員　１ページ目の予習復習は取り組みが弱いが、授業への参加状況は良い

　　　　集中して授業に取り組んでいる様子が読みとれる

　　　　地歴が高い数値だが、暗記教科になりがちだが、工夫している様子が読み取れる

　委員　授業アンケートの視点は義務教育とは違う

　　　　専門科目を置いている高校で同じアンケートを実施しているのは難しいように思う

　　　　地歴が突出して高いため、私も社会だから、どのような授業を行っているのか興味がある

　　　　堺市でもタブレット等で授業がようやくできるようになってきた。

　　　　視覚支援を行う授業がこれから増えると考えられるため、授業改善が必要である

　　　　各教科でも取り組みが必要となることが考えられる。

　　　　ＳＧＨ等でも国際教育が望まれるため、ＳＰＨの取り組みに期待したい。

　委員　農芸高校の生徒は数学が苦手のように感じた。

　　　　数学と外国語が苦手

　　　　社会は娘からも面白いとうわさを聞いていた。生徒に興味があるところから授業を展開しているように感じる。習熟度別の授業の展開が今後望まれるのではないか。

教頭　社会に関しては授業の初めに時事ネタなども取り入れ工夫をしている。

　　　　社会の全授業でＰＰＴ教材を活用している。全員が興味を持てる授業を工夫している。

②ＳＰＨ関連事業報告

烏谷　１～１５研究プロジェクトの概要、国語・理科・社会の取組について説明

土肥・林田・喜多村・葉山から各研究プロジェクトの説明

委員　３つの力、教育活動の体系化、効果測定についてどのように実施する予定なのか

委員　すごい取り組みである、漠然としているが校外・校内への取組が地域創生に繋がっていく、すごい学校であると感じた

委員　社会課題、ゼロエミッション、災害備蓄食品、子ども食堂へ社会課題の解決にどうつなげていく

　　　SDGs未来都市の指定を受けた、持続可能性に関わっていく内容である、重要であると感じた。

　　　持続可能性と農業との繋がりは欠かせない。念頭に置いた取り組みをしてほしい。

委員　義務教育でも総合的な学習の時間は必用である。

　　　ベーシックな科目の下支えは必要となる、課題研究、総合実習の成果が大学等の評価に繋がってほしい。ＡＯ入試等、広がってくれたら良いと思った。

　　　開かれた教育をどのように展開していくつもりなのか

委員　子ども食堂について大阪市でも取り組んでいるが、子どもが入っていない。どのように子ども食堂を展開しているのか。

委員　限られた校区で実施し、不定期で行っている。子供の居場所作りとして取り組んでいる。

　　　農芸高校の生徒が参加することで世代を超えた繋がり、地域も刺激を受けながらネットワークを広げられる。

委員　里親、ネグレクト等への自分たちの授業を通して関われることは有益である。

　　　台風で甚大な被害を受けた、ＰＴＡで臨時会議にて台風被害で何ができるのか緊急提案できる。

　　　ワンワールドフェスティバルには毎年参加している、高校生の発表の場がある、そこに出るのも一つかもしれない。

③平成30年度進学・就職の状況

進路　就職の内定状況、進学状況の説明

　　　進学に関しては、近年合格のなかった明治大学1名、長野大学1名合格している。

　　　就職に関しては、数は例年通りであが、今年の特徴は関連業種の就職が増えたように感じる。

　　　人手不足の現状もあるためか、複数の就職受験が可能になった。

　　　応募前職場見学では、本校の卒業生が案内をしてくれた見学先への受験が多かった。

委員　指定校求人以外の就職先へも就職すると聞いているが、どのような仕組みになっているのか

進路　例えば、縁故就職の形がある。

委員　縁故就職の場合は労働基準に関するリスクが考えられる。例えば、学校側に書面で提出するよう義務付けることはできないのか

進路　アルバイトから縁故就職を決めるケースなどは過去にもあった。

　　　生徒には労働基準に関して書面で提出をもらうよう、指導している。

教頭　ＡＯ入試では、これらＳＰＨ等の特別な取り組みが合格に繋がっている。学校における特別活動の充実が今後より一層大切になってくる。

④その他

各分掌からの進捗状況

教務　教務部では新2年、新3年における選択授業を取りまとめたところ。

　　　第1回授業アンケートを実施、3.0以下のところについては授業改善に取り組んでいきたい。

転退学者が20％増加した、今後その理由、対策を図っていきたい。

生指　生徒指導においては遅刻指導に取り組んでいる。遅刻撲滅週間をつくっているものの、効果はいま一つ。ピアス指導もしているが、生徒も問題ない。ピアス指導におけるトラブルはない。口紅指導をしている、学校全体で取り組む姿勢も向上している。

　　　生徒同士の横と縦の繋がりを強化していくよう指導していく。

　　　最近、支援を必要とする生徒が増えてきている。生徒はそのことは知らない。なぜ、あの子はいいのか、など今後要支援対策をどうするのか見当が必要。

進路　主体性評価をどうするか、大学入試制度の改革が始まる。eポートフォリオなど問題もあるが、それについて各高校間で情報共有し、業者からも情報を集めながら指導体制作りをしているのが現状である。1年ではベネッセのeポートフォリオのログイン、使い方を説明し、取り組みを開始したところ。

保健　スクールカウンセラーを設置。熱中症対策の啓発運動、きめ細かな指導に取り組んだ。ＰＴＡから強い要望を頂き、冷水器を設置できた。大掃除に取り組み、きれいな学校づくりに取り組んでいる。

総務　農芸高校のPR活動、PTAとの連携をしている。学校説明会、体験入学の説明、外部の説明会、大阪府の説明会、各学校へのパンフレット送付などしてきた。昨年はTVの影響、100周年のイベントなどもあり、学校の受験倍率も高かったが、今年は参加人数が非常に少ない。パンフレットはカラー、ＨＰの充実も行った成果もあり全国でＨＰの表彰も受ける事ができた。年２回のＰＴＡ新聞の発行を行うなど、ＰＴＡの発表でも表彰を受けた。

校長　要支援対象の生徒も増えてきている。社会性、生徒同士の距離とりかた、ものの言い方など問題が起こっている。コミュニケーションの取り方によって、生徒を傷つけあうなど、うまく行動できない難しさがある。生徒の指導に関しソーシャルスキルトレーニングなど指導に悩みながら取り組んでいる。また、部活においては顧問の指導についてトラブルが起こっている。生徒間の指導において管理職も入り、職員会議でも個人の特性をについて情報共有を図りつつ生徒指導に取り組んでいる。今後の課題としては、問題行動などについて教師が丁寧に指導、寄り添う指導、生徒達の居場所づくりができるように取り組んでいく。スクールカウンセラーと連携しながら取り組んでいきたい。

教頭　先生方のスキルアップも必要。

最後に全体的なまとめ、ご意見を頂きたい。

委員　総務部の生徒の募集について、通学範囲が限られているが、広範囲に出したほうが良い

　　　本校では全高校に応募を出し、ＰＲしている。

委員　発達の特性について、乳幼児から成人までにでることがあるが、適応ができる生徒は多い。

　　　情報共有することが必要。違う生徒への異質感を感じ、外傷体験となる。疲弊感がでてくる。そのため、実体験を学習する学校であるからこそ、座学だけではなく、興味関心が高くなるから生徒をうまく引き出し、取り組む事が必要。

個人としての興味を引き出すことが必要。不適格な変化がみえるときに成長がはじまることもある。成長の前に鬱があるなど、変化がみられることが多い。

委員　今後とも地域課題解決など継続した取り組みをお願いしたい。美原区、堺市の企業に勤めてもらうことが、地域の活性に繋がる。よろしくお願いしたい。

委員　分掌からの取組を聞いて、送り出す側からすると、ありがたい学校だと感じた。安心して農芸高校におくりだせる。今後も活躍してほしい。

委員　中退者が増えている。このあたりの原因究明をしてほしい。支援が必要な生徒達は、個人と保護者との要望があるから表に出せないということなのか。

校長　できればカミングアウトを推奨しているし、その思いをもって指導しようと心掛けている。しかしながら、保護者との関係や思いもあるため、担任とクラスの雰囲気づくりに取り組んでいる。そのときに問題事象が起こらないよう、各教員の見守りづくりを行っている。

教頭　各先生方からの意見につきましては、今後の学校教育の参考にさせていただきます。

　　　本日の議題は以上です。その他、第３回の学校協議会は２月８日(金)です。ご予定ください。

校長　長時間ありがとうございました。今後ともご支援お願いいたします。

その他

　次回　　第３回　学校協議会　平成31年２月に実施予定　詳細は後日